次に強供御を供ず、次に二の御盤を供ず、御陪膳の典侍、強供御の先中央にある根ぶかを二ばかり押折て、強飯の上に置く、又御前の方にあるこまかなる物を少しとりて、強飯の上に置く、次に御箸をとらしめ給て、二の御盤にあるかはらけを、左の御手に持しめ給ひて、強供御を少し御箸にて分け土器に入れ、又二の御盤にある菜のあつ物に莖立を上に置てそと參る、次に平の御盤に御盃を居ゑ、廻りに深草土器三づゝ重ねて九つ居う、是を小さかづきといふ都合廿七にて、上にゑだの葉を覆ふ、御陪膳、平の御盤を持ち、ゑだの葉を取のけ、御銚子醴酒を入を取て御前にさし寄す、中央の御盃をとらせ給ひて三獻供ず、加へなし終りて撤す、次に御湯御ゆを供す、強ぐごを取分られたる土器にうけまし〳〵て參る、何れも體ばかり也次第に御前の物を撤す、くだ菜の御膳は御手長の命婦便宜の所に置くよしなり、

〔伏見院御記〕正應三年正月一日乙巳、於朝餉供夕御膳略中等、二日丙午、次於朝餉供朝夕膳略中等、

〔實隆公記〕文明六年正月朔日丁亥、酉下刻御強供御事有召出、參仕之人々、略中　二日戊子、秉燭時分有御強供御被召出、三日己丑、御強御供參仕之人々如昨夕、

〔御湯殿の上の日記〕長享三年正月一日、御こわく御一こんもつねのごとし、二日、昨日のごとくにく御もまゐる、三日、うけとりの御てうし、新大すけ殿御いままゐり、く御にもおなじくまゐる、

〔二水記〕永正十六年正月二日、於外樣御膳朝餉等事有之、

〔御湯殿の上の日記〕慶長三年正月一日、略中こわく御まづまゐる、御はいせん大すけどのながはしいよどのなり、いつものごとく五ぎぬ、はりばかまにてまゐらるゝく御にも物のぐめさします、三日、略中こわく御まゐる、御さか月三ごんまゐる、